

2010年度 新宿区多文化共生連絡会 第4回全体会 参加者一覧

2010年12月13日(金)

多文化共生プラザ 多目的スペース

No	所 属	氏名
1	大久保いぶき町会	太田 昭二
2	在日本韓国人連合会	李 承珉
3	明治大学国際日本学部教授	山脇 啓造
4	共住懇	山本 重幸
5	NPO 法人在日外国人情報センター	小池 昌
6	新宿区女性海外研修者の会	浅見 美恵子
7	韓国人生活ネットワーク	金 根熙
8	NPO 法人難民支援協会	石井 宏明
9	東京中国人センター・プラザ相談員(中国語)	山本 風彬
10	プラザ相談員(タイ語)	渡辺ナタニー
11	外国人総合相談支援センター	山村 哲平
12	大久保いぶき町会	植木康次郎
13	ダイバーシティ研究所	前川 典子
14	(財)新宿未来創造財団	藤牧 功太郎
15	(財)新宿未来創造財団	畑山 好信
16	新宿区 大久保特別出張所長	黒田 幸子
17	新宿区 文化観光国際課課長	山田 秀之
18	新宿区 多文化共生担当副参事	月橋 達夫
19	新宿区 しんじゅく多文化共生プラザ所長	宮端 啓介
20	新宿区 文化観光国際課係長	磯野 義裕
21	新宿区 文化観光国際課主査	小滝 靖
22	新宿区 文化観光国際課主事	青江 和
23	新宿区 文化観光国際課	柏木 弘道

新宿区多文化共生連絡会 会議要旨

日 時 : 平成22年12月13日(月) 18時から20時
会 場 : しんじゅく多文化共生プラザ 多目的スペース
参加者 : 23名(詳細は別表)

～開会～

A: 時間になりましたので、しんじゅく多文化共生連絡会第4回全体会を開催させていただきます。本日は皆さん、大変お忙しいなか、お集りいただきまして、誠にありがとうございます。私ごとになりますが、前回、前々回と欠席させていただきましたこと、お詫び申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。では、最初に事務局からご説明をお願いいたします。

B: それでは改めまして、本日はお忙しいところ、お集りいただきまして、誠にありがとうございます。今年度、多文化共生連絡会というかたちで会をスタートして、今回で4回目の開催となりました。今年度のこれまでの活動を整理する意味で、本日資料を用意いたしました。6月17日の第1回全体会から分科会等を経て、10月1日の第3回全体会までの流れを時系列で整理いたしました。また、中間のまとめということで、3つの分科会でご議論いただきました内容について、整理したレジュメを資料のなかにつけさせていただきました。この中間のまとめにつきましては、11月1日に行われました新宿区議会の総務区民委員会でご報告させていただきました。年度末に向けて、分科会で再度話し合いをしまして、最終的なまとめに向かっていければと考えております。

本日の議題としましては、式次第にも書かせていただきましたが、しんじゅく多文化共生フェスタについて、プラザ利用者アンケートについて、それから中山区長が11月14日の区長選挙において三選をされましたので、区長マニフェストについて、の大きく3つに分けてご議論いただければと思います。また、先週の水曜日になりますが、この多文化共生プラザの利用団体の方に集まっていただいて、利用者懇談会を初めて開催いたしました。実際参加された団体は4団体でしたが、各団体の活動内容の紹介、情報交換等のご議論をいただきまして、非常に有意義な会となりました。皆さんからもプラザの活性化等について、ホームページの充実ですとか、イベントの開催、いろいろな視点からご意見をいただいておりますので、そうした意見を参考にしながらさらにプラザを発信していきたいと思っております。発信という意味で、来年2月5日の「広報しんじゅく」でこの多文化共生プラザを大きく紹介したいと考えています。日本の方にもプ

ラザをしっかりと知ってもらうという意味を込めまして、特に多文化共生連絡会の活動内容を中心に広報したいと考えております。今後、多文化共生の施策については、皆さんのお力を借りてご議論していければと考えております。本日はよろしくお願いたします。

A：ありがとうございました。それではここからの進行はファシリテーターにお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

～（仮称）しんじゅく多文化共生フェスタについて～

C：それでは、早速本日の議題に入らせていただきます。本日3つの議題があります。まず、（仮称）新宿多文化共生フェスタについて、事務局からご説明をお願いいたします。

B：それでは、配布いたしました資料2を見ていただけますでしょうか。これはあくまでも私どもの方で簡単な案と言いますか、ご提案させていただきたいものでありまして、目的としましては、新宿区が多文化共生への理解と関心を深めてもらうためにイベントを開催したい、ということでもあります。多文化共生プラザについての積極的なPR、それから外国人と日本人が互いの文化を知り、交流するということを目的としています。以前、プラザのあり方検討会のなかで、プラザだけではなくて大久保公園、あるいは歌舞伎町のなかにありますシネシティ広場、そうした場所を活用しながら、また企画段階から外国の方に入ってきていただいてイベントを開催することでプラザのPRや活性化につながるのではないか、というご意見をいただきました。そうしたご意見を踏まえて、現在新宿区のほうで歌舞伎町タウンマネジメントという組織がございまして、歌舞伎町を活性化するための組織になるのですが、そうしたところや防災関係を主にやっている区の危機管理課とタイアップして幅広いイベントができないか、ということで提案をさせていただきました。開催日時については、公園等の予約もありますので来年の2月11日（金）にできないか、と思っております。内容については、たとえば、各国の料理を体験していただく屋台を出したり、あるいは踊りや歌、音楽、そうしたものを紹介する催し、あとは多文化共生に関するクイズ、などを企画しています。主催は行政がすべてやるというのではなくて、新宿区多文化共生連絡会が実行委員会となって主催者というかたちで検討していければと思います、今回提案させていただきました。簡単ではありますが、説明は以上になります。

C：ありがとうございました。本日、議題が3つありますので、これから30分程度、皆さんでご議論いただければと思います。今のご説明を聞いていただいて、皆様のご意

見をいただきたいと思います。

D：場所についてですが、これは1か所ですべての催し物を開催するのか、それともいくつかの場所に分けて開催するのか、そのあたりについてはいかがでしょうか。

B：まず物販、ものを作って売ったり、屋台を出して何か食べていただくということは、どうしても場所が限定されてしまいます。それができる場所はどこかという、大久保公園の中になります。そこでしかできません。シネシティ広場というのは、いわゆる区道にあたるので、そこでの屋台や物販というのは原則できないということになっています。ですので、物販や屋台は大久保公園でやるということになります。たとえば、歌や踊りといったようなことは、シネシティ広場を使ってできるのではないかと思っています。大久保公園については、比較的スペースがありますので、防災のイベントや体験をしていただくことができると思います。

C：内容に関しては、あくまでも例ということですよ。イベントの開催自体は、Dさんは賛成でよろしいでしょうか。

D：はい。たとえば、各国の料理を出すといったら経費がかかると思うので、その予算についてはどこから出るのか、ということをお伺いしたほうが良いと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

B：私どもの文化観光国際課だけでいうと、予算は50万円です。

E：実際、私は多文化に関する屋台を出したり、舞台をやったり、そういうイベントを何度も体験したことがあるのですが、一番問題になるのは火回りと水回り、そしてゴミです。それからステージに関しては設営と音響です。正直、50万では完全に無理です。特に屋台に関しては、保健所の許可を得るために水回りを非常にうるさく言われるんですね。このあたりをどのようにお考えなのでしょうか。あと、実際3ヶ月しかないわけです。出店者をどのように募集するのか、参加者への周知についても3ヶ月では難しいと思います。

C：Eさんとしてはこうしたイベントの趣旨には賛成だけれども、やる以上はそれなりの予算を組む必要がある、ということですね。

B：もともとこれをやろうということで、以前から予算取りとしたとか、そういうことはない、なるべくお金をかけないで啓発イベントができないか、と提案させていただ

きました。

E：屋台というかたちではなくて、どこかの施設でつくったものをお弁当箱につめて販売するというかたちですと、水回り、火回りは随分片付きます。そういうようなかたちでお金がかからないやり方は一つあると思います。

F：質問になりますが、2月11日、この内容でもし雨が降ったらこのイベントは成立するのですか。雨が降ったら本当に厳しいと思います。私もこの手のイベントを6年やっていますが、10月にやっても結構悲惨な状況になります。私もこの手のイベントをやることの趣旨には賛成です。一つポイントになるのは、さきほどご指摘があったように、10月のふれあいフェスタとの違いをどう出していくかですよね。

G：何百人規模くらいの方を対象としたフェスタをお考えでしょうか。

B：あまり具体的な数字は出ないのですが、2000人規模とか、来場者の数でいうとそれくらいの数のイベントになればいいかなと思っています。12月5日に大久保公園で農山村ふれあい祭りというものを開催して、そこで各地の名産品を売ったり、食べ物を提供したりというイベントをやりました。それを実際にやったのが歌舞伎町タウンマネジメントという組織です。そのときで約2000人近い方が来場された、と聞いています。

G：2000人規模というと地域センターがやっているセンター祭りと同じくらいの規模ですよね。参加者がどれほど参加できるのか、ということ考えると2000人規模というのは難しいかなと思います。

A：事務局から2月11日という提案があったのですが、これはもう少し期間を置くということができますでしょうか。もう少し暖かくなってからでもと思うのですが、いかがでしょうか。

B：この日しか空いていないということで設定したわけではなくて、たとえば、2月末から3月上旬にかけては区役所のなかでもいろいろ議会の関係でばたばたすることがあります。それから休みの日にどこかでやりたい、ということがあって2月11日はどうか、ということになりました。ただあくまでも内部的な話しなのでこの日に決めた、という大きな理由はありません。

A：予算的には4月1日以降も可能ということでしょうか。それとも3月末までに開催し

たいということでしょうか。

B：来年は来年で、できればもう少し皆さんのご意見も踏まえて、大きなイベントにしていきたいと考えています。単発的なイベントではなくて、今後も継続していきたいと思っていますので、今年度中に3月までに一度何かやりたいと思っています。

D：今からやるとなると、できるだけ先送りしたほうがいいと思います。

A：中身の充実を図る、ということのほうが大事だと思います。2月11日の予定が変更できるのでしたら、1ヶ月くらい余裕をもったほうがいいアイデアも出しやすいのではないかと思います。

C：開催日時についてももう少し遅らせてほうがいいのではないか、というご意見がありました。最初の目的に関しては皆さん、ご異論はないということでしょうか。では次に主催ですが、この連絡会が主催するという点についてはいかがでしょうか。

D：この連絡会が主体となってやると、タウンマネジメントがどのくらいものと考えて、どのくらいのお金を出してくれるのか、それをうまくすり合わせをしておかないといけません。それをやらないと私たちができることは限られます。私たちのほうで集められる人数というのは、せいぜい400から500人だろうと思います。彼らのほうはどれくらいの規模で集客ができるのか、そのあたりも分かっていないし、そのあたりの事情を皆さんに分かるようにしておいたほうがいいと思います。

B：歌舞伎町タウンマネジメントは、もともと歌舞伎町の活性化のためにイベントを開催する、ということを目指していますので、そういう意味で一緒にイベントをやりたいという思いはあります。

E：さきほど2000人の動員とおっしゃっていましたが、ステージの活用によってはもっと高い数字を上げられると思います。ある程度音のでる韓国の太鼓の踊りであるとか、ブラジルのサンバなどを中心に展開していくことで5000とか10000という動員はできるはずです。

F：また質問になるのですが、プラザのあり方検討会のなかでイベントを開催するという案が出ていたと思います。そちらの部会が主導的に何かの敲きを出す、ということになるのでしょうか。

B：プラザのあり方検討会のなかで皆さんからの意見としては、具体的にこういうふうなイベントをしよう、ということではなくて、概括的、総括的に企画段階から皆さんに参加していただけるイベントをうったら効果的ではないか、という意見をいただきました。それを私どもが受けて提案をさせていただきました。時期的な問題で2月はあまりにも早すぎるということで、もし仮に3月にやったとしてもなかなか分科会だけで企画を敲いて、それを皆さんに提示ということになると時間もかかるのかな、と思いますので、できれば全体会のなかで皆さんから意見をいただきながら、企画を練り上げていければ、と思います。

C：そうすると今日のこの場では、開催日時であったり、内容に関してはいろいろなご意見をいただいているのですが、どこまで固めて今後どのようにしていきましょうか。

B：今皆さんから貴重なご意見をたくさんいただいたので、歌舞伎町タウンマネジメントにも投げて、改めて皆さんにお知らせさせていただきたいと思います。もう少しきちんとして整理をしたうえで、話し合いをさせていただくという仕組みはいかがでしょうか。

C：そうするともう一度全体会を開いて、そこで決めるということになりますか。皆さん、その点はいかがでしょう。たとえば、このなかで実行委員の方を選んでその方で集まってもいいかなと思います。

H：実行委員の方の負担がかなり大きくなってくると思います。皆さん、こういうイベントをやったことがある方もいれば、そうではない方もいらっしゃると思いますので、自分がどこまで仕事ができるのかということと、皆さん個々にお仕事があると思いますので、時間の割り振りであるとかで、なかなか実行委員に手を上げづらい環境にあるのではないかと思います。

E：それ以前の話として、歌舞伎町タウンマネジメントの思惑、本音を聞かないとなかなか動きづらいと思います。具体的に何を考えていて、いくら予算があつて、人はどれだけ出せるのか、ということをお聞いておかないといけないと思います。

B：今日は皆さんからいろいろご意見をいただいて、提案させていただいた企画では非常に厳しいということを改めて認識しました。私どものほうでもう一度歌舞伎町タウンマネジメントと細かいところを詰めさせていただいて、全体像を作らせていただきたいと思います。タウンマネジメントの担当者にもこの場に参加していただいて、皆さんと意見を交わしていただく場をなるべく早く設けたいと思いますので、よろしく願いいたします。

C：それでは、今日のところは一度事務局に引き取っていただいて、次回再提案していただきます。よろしいでしょうか。

A：事務局にお願いしたいのですが、予算が50万ということなのですが、これはできることならもう少し増やしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

～プラザ利用者アンケート（案）について～

C：続いて第2の議題に移りたいと思います。プラザ利用者アンケートについてです。昨年度もプラザの満足度調査を実施したということがありますが、プラザのあり方分科会におきまして、アンケートについてより利用者のニーズを把握できるような、そういう内容に、というご意見をいただいています。その点を踏まえて、今回事務局からのアンケートの提案、ということ伺っていますので、具体的に説明をいただければと思います。

B：これについてはプラザの所長から説明をお願いしますでしょうか。

I：今年の3月にプラザの利用者満足度調査を実施いたしました。そのときには基本的な質問項目のみで、資料3の1～5¹までの質問でした。プラザのあり方検討会で、現状でのプラザの使い勝手等について、いくつか問題、課題があるのではないか、ということで提案を受けたものを今回具体的な質問として追加させていただきました（資料3の6～17²）。

【資料3の質問項目、6～17についての説明】

C：ありがとうございます。では、アンケート（案）についてご意見いただきたいと思えます。皆さん、いかがでしょうか。特にあり方検討会のメンバーの皆さん、いかがでしょうか。

F：質問ですが、図書の整備についてはもともとどのような考え方で整備をされているのでしょうか。

¹ 資料3の1～5・・・プラザを知ったきっかけ、誰と利用するか、どのくらいのペースで来るか、主な目的、プラザの良い点の5項目。

² 資料3の6～17・・・パソコンの利用について、飲食の問題、子ども連れでの利用、プラザの場所について、多目的スペースについて、図書について（読みたい図書）、情報コーナーのパンフレット等について、掲示板について、など。

I：こちらの図書コーナーは大きく二つに分かれていると思うのですが、入って右手側のほうが一般的な図書、情報コーナーというかたちで開設した当初に一括して購入をしました。ですので、常にメンテナンスをしているということはありません。それから入って左手のほうに日本語学習コーナーがありまして、外国人の方々が日本語を学習するための教材を用意してあります。そちらのほうはボランティアの方が管理をしています。定期的に教材の補充ですとか、入れ替えをしていただいています。

F：現在、新宿中央図書館のほうで新しく情報センター構想という話が出ているかと思っています。そのなかで外国語の図書の整備も拡充していこう、という話しも出ていますので、図書館側とこちら側の関係性といいますか、整合性は今後どのようになりますでしょうか。

I：新宿区立の図書館では大久保図書館ですとか、四谷図書館で多文化共生コーナーをつくっていろいろな多言語での図書の用意がされています。大久保図書館の方はこちらとも連携をして、この利用者の方が大久保図書館を利用しやすいように情報提供などはしています。

J：質問項目のなかにプラザの良いところはどこか、という質問があるのですが、プラザを利用するにあたって利用しにくいところ、プラザの良い点についても聞いたほうがいいのではないかと思います。あと質問ですが、12月4日に利用者懇談会があったと思うのですが、その内容はどのようなものだったのでしょうか。

I：実際に利用団体の方たちにお声かけをして集まっていただきました。利用者懇談会で出た意見はあとでお話しさせていただきたいのですが、開催の目的が今までこちらを利用されている団体はそれぞれ単独で、教室や催し物をやっていただいていたわけですが、なかなか団体さん同士のつながり、交流がありませんでした。今回の利用者懇談会で初めて同じ席でお互いの活動内容や情報交換ができました。そのなかで皆さん、お話しをしていくうちに多目的スペースの使い勝手についてのいろいろな意見が出されました。なかでも特に子どもの利用がしづらい、飲食ができないのでできたらいい、あとは多目的スペースの予約方法についての話しができました。この他にも利用団体の方でいろいろなご意見があると思いますので、アンケートに是非書いていただければと思います。

J：補足になりますが、もちろんプラザを利用される方の意見はとても大事なのですが、ここに個人で来て利用されている方の意見も是非聞いていただいて、その意見をアンケートに反映していただければと思います。

I：今までこちらに来られた方で、たとえば、相談員さんを通して入ってきた話しであるとか、受付の方を通して入ってきた話しなどは、このアンケートのなかにも反映をさせていただいています。

K：質問になるのですが、なんとなく情報はもっているけれども利用していない、という方に聞くほうがおそらくもっと多くの人に利用してもらうためにはいいのかな、と思います。たとえば、各地域センターでもいいのですが、新宿区にはこういうことを目的としたスペースがあります、場所はここで、というふうに来ない人へのアンケートがこの活性化につながるように思いました。

C：他にはどうでしょうか。今までいただいた意見はプラザの良い点を聞いているので、プラザの改善点を聞いたらどうか、というご意見がありました。もう一つは、利用者のアンケートとは別に来ない人に対してもアプローチしてほしい、という意見です。

B：さきほどのお話しにもありましたが、ここを利用していない人の考えをもっとリサーチしたほうがいい、ということは非常に貴重なご意見だと思います。たとえば、地域センターにお願いして調査をすることも可能です。私どもではなかなか目の行きとどかない方たちに対する調査を、連絡会に参加されている皆さんのお力を借りてリサーチするという事は是非やりたいと思います。

K：それは協力できる限りはやらさせていただきます。

C：他にご意見はありますでしょうか。今後の予定についてですが、アンケートの実施時期、方法についてはすでにお決まりでしょうか。

I：1月にプラザの利用者を対象に実施して、その場で回収できるようにしたいと思います。こちらで集計、分析をして結果をまとめたかたちでプラザのあり方分科会で検討させていただければ、と思っています。実施結果、改善点は分科会を通して全体会でもまたご報告させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

H：さきほどお話しいただいたように、利用していない方たちという視点であれば、たとえば、フェスタがあると思うのでフェスタを利用してアンケートを取ることをすれば非常にいいチャンスではないかと思います。

～区長マニフェストについて～

C：では最後の3番目の議題に移りたいと思います。まず事務局からご説明をお願いいたします。

B：中山区長が11月の選挙で三選を果たして、今後4年間区政を担っていくことになりました。そのなかで事前に区民の皆さんにお約束したマニフェストが配布しました資料となっております。区長マニフェストの最初のところに、多文化共生という文言が入っております。この中身を見ていただいても分かるように、新宿のキーワードは多文化共生です、ということが言われています。これを受けて70ある施策のなかの51～53³に多文化共生のことが書かれています。

【多文化共生に関する施策についての説明（資料4-51～53）】

C：ありがとうございました。残りの時間も少なくなってきましたので、できるだけ皆さんのご意見をいただきたいと思います。特に51の「多文化共生推進会議」の制度設計に関してご意見はありますでしょうか。

D：文言であまりよく理解できない点があるのですが、「新宿多文化共生推進会議」ということで共生することを推進しますよ、ということを目的とした会議とイメージしてよろしいでしょうか。共生という文言がどのように定義されているのか、という点が分かりにくいと思います。

B：新宿区の定義する多文化共生とは何か、ということがあると思いますが、認識としては異なる文化を理解しあって、ということが基本です。そこには当然義務も発生しますし、権利も発生します。健全な都市生活を送っていくためにお互いが地域で理解しあって暮らしていきましょう、というふうには私は理解をしています。単に外国の文化を知る、日本と外国の方が交流する、というものではないと考えています。地域における課題を日本と外国の方が一緒になって考えていく、ということだと思います。

D：共生の定義をきちんとはつきり出してもらったほうがお互いに楽なのではないでしょうか。

³ 51・多文化共生プラザのネットワークを強化する。地域における多文化共生を進めるとともに外国人と日本人の相互理解を促進し、区政参加を進めるため「(仮称)新宿多文化共生推進会議」を設置する。
52・外国にルーツをもつ子どもに日本語学習支援と合わせて生活支援に取り組む。
53・外国語の案内、イベント・行政情報の提供を充実し、外国人にとって分かりやすいまちづくりを進める。

C：今おっしゃられたのは新宿区の出す共生社会というものがどういう社会なのか、そのイメージが分からないということですね。たとえば、日本語を学習しなくても外国語だけで生活が成り立つ、そういう社会でも共生社会と言えるのか、あるいは法律、条例を守らない人たちも認めてしまうのかどうか、そういうことを含めて新宿区としての方向性を示してほしいというご意見です。

F：ここにはっきり書いてあるんですね。区政参加を進めるため、と書いてあるんです。今の定義の問題は非常に大きな問題だと思うのですが、これはもともと区長が以前外国人区民会議という構想を出しています。この連絡会が内部的にそういうものを考える母体としてやっていくのかということと、今度は外からみてこの連絡会がそのことを検討する場として理解していただけるのか、という二つの問題があると思います。今後の進め方というのはどうなのでしょう。

B：現在、この連絡会については、直接政策提言をしたりですとか、区政に影響をもつとか、残念ながらそういうところには行っていません。ただここで議論していただくことで、政策に少しでも反映できることは事務局が努力していきたいと思っています。私たちの思いとしては、やはりこうしたかたちで地域の方や外国の方、日本の方が一同に会して課題解決に向けて話し合う場というのは、この多文化共生連絡会がむかしからネットワーク連絡会の流れを引き継いでいて現在行われている、ということは大事にしたいと思います。

L：今のご質問にも重なると思うのですが、区政参加を進めるためにという目的と外国人の方に関わるいろいろな課題を解決するために日本人と外国人が一緒になってという目的は少し違うかなと思います。あと将来的に企業の方も参加していただける会議になるのか、ということをお聞きしたいと思います。

B：正直、そのあたりの整備はまだできていないというのが現状です。私たちが目指そうとしている「新宿多文化共生推進会議」というのは、やはりオール新宿、特定の地域だけの問題ではなくて、すべての地域を巻き込んで新宿区全体の政策を検討していく会議にしていければという思いがあります。そうしたなかで企業の参加やNPOの参加がどこまでいけるのか、というところは制度設計のなかで皆さんの意見を聞きながら検討していくことになるのかな、と思います。

K：第一に区長のマニフェストと書いてあるのですが、これは区の方針ということで理解していいのでしょうか。

B：マニフェストについては毎年見直して翌年は変えるということはないので、ここに掲示した文言が変わることがありません。

M：補足になりますが、今回配布しました区長マニフェストですが、これはある意味政治家である中山弘子候補がこれを掲げて新宿区長選挙に出たという資料になります。11月にありました定例区議会で区長の施政方針、基本方針を出しています。それでこちらに書かれてある内容がそのまま基本方針となっています。ですので、これがそのまま区の運営方針となりますので、それをご理解いただければと思います。

B：先ほどお話しにありました自治基本条例の件についてですが、区民の定義とは何かということが第2条にあります。そこでは区域に住所を有する者、並びに区内で働く者、学ぶ者、活動する者、それから個人だけではなくて活動する団体も指します、とあります。本当に広い意味で定義されています。それから自治基本条例の前文の最後に、私たちはこの地に集う人々とともに互いのもつ多様性を認め合う多文化共生社会の実現を目指す、というふうに多文化共生を目指すという文言がしっかりと入っているということも自治基本条例の大きな特徴だと思います。この自治基本条例が新宿区における最高規範ということですべての条例、規則に優先する、ということです。

C：ではそろそろ時間になりましたので、3番目の議題はこれで終了したいと思います。ありがとうございました。

～閉会～

A：皆さんには大変貴重なお時間をいただきまして、熱心な議論をしていただき、本当にありがとうございました。それでは以上をもちまして本日の会議を終了したいと思います。事務局から最後に何かございますか。

B：今日皆さんからいろいろご意見をいただきました。最初に多文化共生のイベントについては、もう一度設計をし直しまして、1月に再度全体会を開催させていただきたいと思えます。なるべく早いうちに皆様へ開催通知をお送りいたします。その際には歌舞伎町タウンマネジメントの担当者にも参加していただいて、皆さんと意見交換していただきます。また分科会につきましても、事務局からリーダーの方にご連絡させていただいて、改めて進めていきたいと思えます。もう一つ全体会ですが、1月に開催したあとに年度の最後、3月に全体会をもう一度やりたいと思っています。そのときには是非中山区長にも参加し

ていただきたいと思います。

A：ありがとうございました。以上をもちまして、第4回全体会を終了したいと思います。
皆さん、ありがとうございました。

以上